

3月定例会

30人に削減!!

市議会の議員定数

現在、西条市議会議員の定数は、2市2町の合併に伴う告示により、34人(現員32人、欠員2人)と定められていましたが、平成18年3月、議会に行政改革調査特別委員会を設置し、議員の定数について、真しに調査・研究と論議を重ねて参りました。

3月定例会中に開催された同特別委員会において、定数を4人削減し、30人とする結論を得るに至ったことから、本会議最終日に、同特別委員会から西条市議会議員定数条例案が提出され、審議を行いました。

その結果、挙手多数により原案可決され、西条市議会議員の定数は次の一般選挙から、30人とすることに決しました。

なお、平成17年の一般選挙は、合併の特例により選挙区を設けて執行されましたが、次の一般選挙では、選挙区が廃止されることとなります。

代表質問

自民クラブ

地域医療の拠点

周桑病院の経営改善とは？



経営改善に取り組む市立周桑病院

問

自治体病院の医師不足が全国的な問題となつてい
る今日、周桑病院においても同様の状況にある。

今回、一般会計から病院事業会計への財源不足補てん補助金の支出が予算計上されるなど、病院経営にとどまらず、市の財政運営にとつても、極めて憂慮すべき事態にあるが、地域医療の拠点としての周桑病院の現状及び今後の見通しと改善策について問う。

答

周桑病院では、精神科病
床の休止後、さらに医師
の引き上げが加速し、平成18年
度に23名であった常勤の医師が
現在11名となつており、特に診
療科では、小児科・精神科の休止
や脳神経外科・整形外科・産婦人
科・眼科が非常勤体制となつて
いる。これに伴い患者数も半減
し、収益は約13億6千万円減少
している。

医師の確保は、経営面からも
不可欠であり、派遣要請活動を
常時行ってきたが、関係大学も
医師不足であり、早い時期での
常勤体制の再開は困難な状況に
ある。このような中、周桑病院で
は、大学当局の配慮をいたいただき、
現在、産婦人科・循環器科・脳神
経外科・整形外科等で総数約30
名の非常勤医師の派遣を受けて
おり、この状況が常勤医師確保
に向けた体制作りになるよう今
後も努力する。また、地域出身医
師の個別情報を収集し、郷里の
窮状を訴え、帰郷しての地元病
院での就業も強く要請している。

医師不足は、当市だけでなく、
国の政策に起因する全国的な問
題であり、市長会等を通じ、新臨
床研修医制度が国内に引き起こ
している問題等に早急に対応す

リベラル西条 施政方針における 諸課題を問う

問1

松山市から県営西条
地区工業用水の一部
転用の申し入れがなされて、2
年余りが経過している。この間、
市長は「水は守る」との一貫した
姿勢を取っているが、平成19年
度からの2か年で実施するとし
ていた「地下水資源調査解析事
業」を、平成21年度まで延長す
るとしている。期間延長に至る
経緯と、今後における西条工水
の一部転用問題に対する取り組
みについて問う。

答

西条工水の一部転用問題
に関しては、最初から「水
は守る」と言ってきたおり、この
姿勢は揺らぐことなく臨んでき
たという自負心を持っている。

道前平野地下水資源調査解析
事業は、道前平野地下水調査研
究委員会の提言を受けながら業
務を進めている。道前平野の水
の総合的な管理システムを構築
し、安全安心で豊かな水を後世
に引き継ぐため、何をしなければ
ならないのかということ考
えたときに、より高度な科学的